

## 令和4年度春期 ITストラテジスト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2022,6,24

4月17日(日)に行われた令和4年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、ITストラテジスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

### ■ITストラテジスト試験試験 (ST)

[令和4年度春期 ITストラテジスト試験 統計情報]

応募者	6,378人
受験者	4,450人
合格者	660人
合格率	14.8%

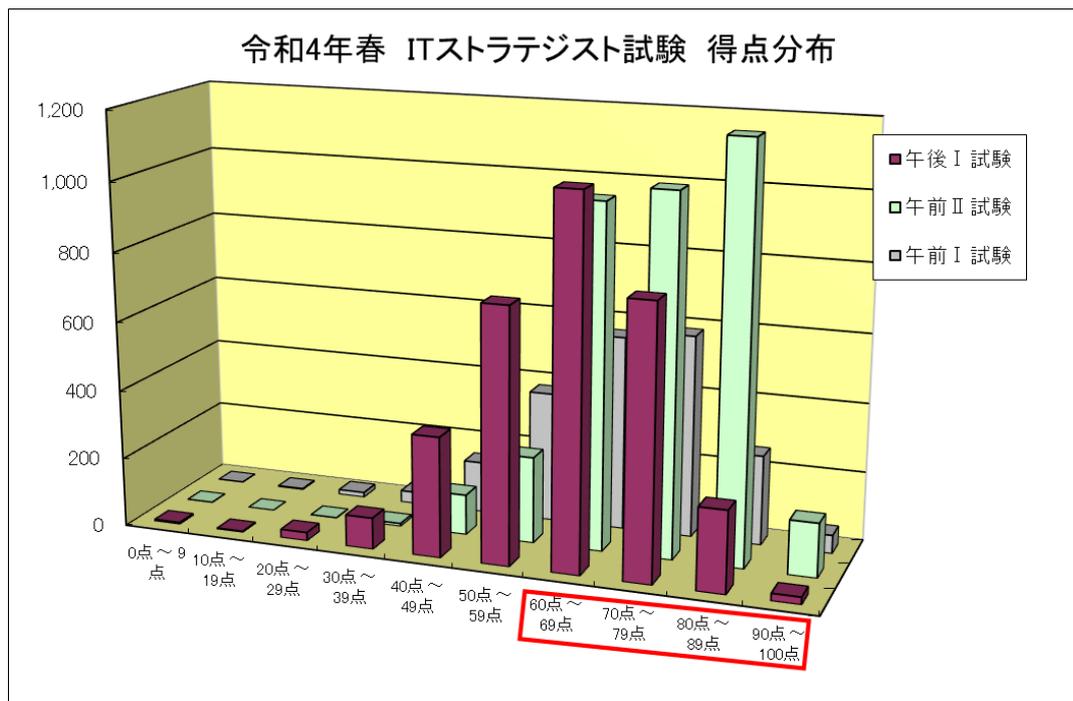
令和4年度春期のITストラテジスト試験の合格率は14.8%で前回の15.3%から微減ですが、平成21年度からの現試験制度では平均的な合格率です。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和4年度春期 ITストラテジスト試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	1	5	D 193	
10点～19点	3	0	3		
20点～29点	14	1	24	C 510	
30点～39点	34	8	91		
40点～49点	149	117	347	B 720	
50点～59点	378	250	732		
60点～69点	563	987	1,054	A 660	
70点～79点	585	1,029	778		
80点～89点	260	1,181	235		
90点～100点	53	156	21		
計	2,040	3,730	3,290	2,083	660
対前試験比率		182.8%	88.2%	63.3%	31.7%
午前Ⅰ免除者(概数)	2,410	54.2%			

合格者数	660	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	1,461	71.6%	801
午前Ⅱ60点以上合計	3,353	89.9%	2,693
午後Ⅰ60点以上合計	2,088	63.5%	1,428
午後Ⅱ-A評価	660	31.7%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除の人は概算で 2,410 人 (54.2%) いて、受験者の 5 割以上の方が午前 II からの受験となりました。

午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 1,461 人 (受験者の 71.6%) で、前回の 73.0% から少し減っています。

午前 II 試験で基準点以上の人は 3,353 人 (受験者の 89.9%) で、前回の 90.5% とほぼ同じですが、かなり高い結果になっています。

午後 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 63.5% で、前回試験の 66.4% から少し減りました。

午後 II の論述式試験で合格点 (A 評価) を取ることができた人は採点対象者の 31.7% で、前回試験 31.3% とほぼ同じです。

## ■令和4年度春期 IT ストラテジスト試験 出題内容について

### (午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

高度試験で共通して出される午前 I 試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) 80 問から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験の 4 割程度の方が午前 I 試験から受験しています。毎回、午前 I 試験を通過できる 60 点以上の得点者は 5~6 割で、出題範囲が広いため試験は以外と難しく感じる人が多いです。最初の試験でつまづかないように、確実に対策を進める必要があります。問題内容は、文章問題は 18 問 (前回 15 問から増)、用語問題は 7 問 (前回 5 問から増)、計算問題が 3 問 (前回 2 問から増)、考察問題が 2 問 (前回 8 問から減) でした。これらは毎回増減がありますが、考察問題が今回かなり少なくなりました。

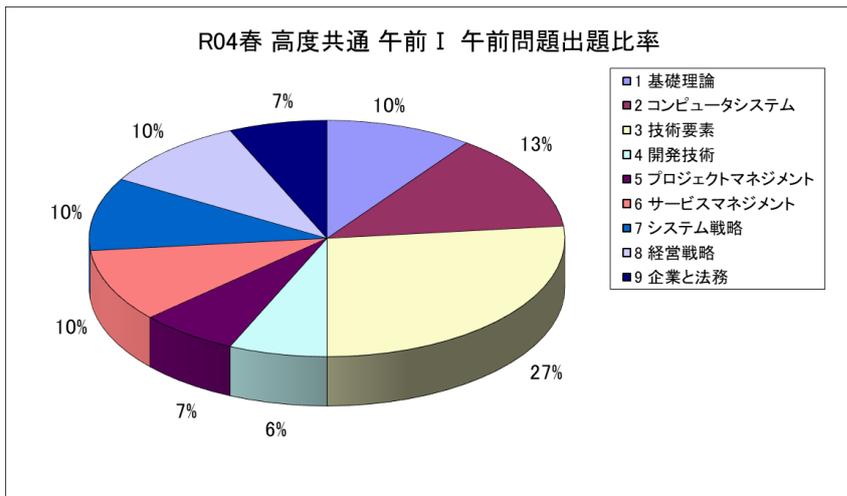
- ・問題は出題範囲からまんべんなく出題される前提ですが、前回と同様に、今回もヒューマンインタフェース、マルチメディアからの出題はありませんでした。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・過去問題はこれまで平均で 7 割ぐらいありましたが、今回も同じ傾向で 7 割強ありました。内容的にはこれまで繰返し出題されている定番問題が多いのですが、対策をあまりしなかった人

には難しい内容ともいえます。全体としては前回より少し易しい内容だったと思われます。  
 ・新傾向問題は次の3問で前回の7問からかなり減りました。これまでの平均は4問程度なので、従来の傾向に戻ったといえます。

(新傾向問題)

- 問5 アムダールの法則に基づいた、性能向上へ及ぼす影響
- 問13 複数のWebサーバにシングルサインオンを行うシステム
- 問24 投資によるキャッシュアウトをいつ回収できるかを表す指標

令和4年度春期 高度試験共通 午前I問題出題比率



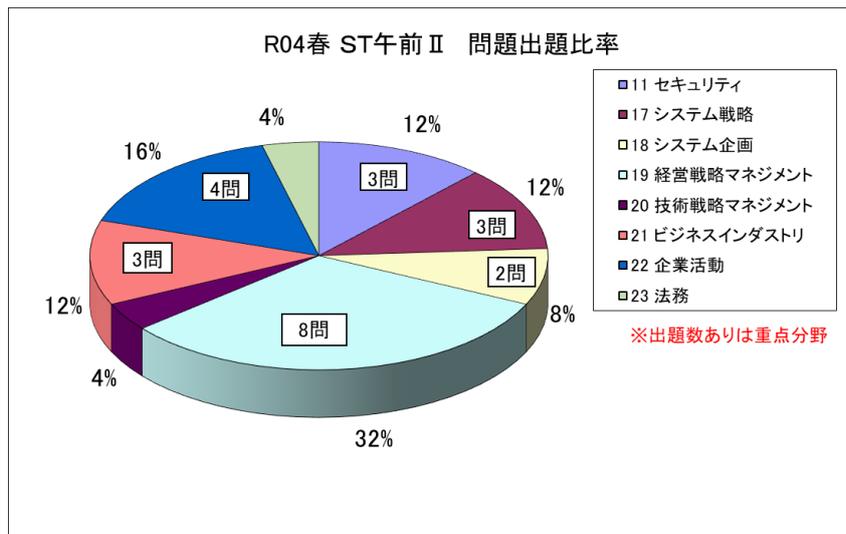
(午前II試験(専門知識問題))

ITストラテジストの午前II試験の重点出題分野は、システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、ビジネスインダストリー、企業活動、セキュリティの6分野ですが、実際には経営戦略マネジメントが8問と最も多く、他の重点分野の2~4問の2倍の出題数です。前回から重点分野になったセキュリティ分野からは3問出題されました(前回は3問)。

新傾向問題としては次の8問が挙げられ、前回より増えています。

- 問2 規制対応のチェック業務を最新ITで効率化する取組
- 問4 投資においてDCF法で算定した金銭的価値の計算
- 問6 ダイナミック・ケイパビリティの説明
- 問7 インバウンドマーケティングの説明
- 問12 マルチサイドプラットフォームのビジネスモデルの説明
- 問17 インダストリー4.0のサイバーフィジカルシステムの説明
- 問21 資産の帳簿価額を回収可能価額まで減算する会計手続
- 問24 政府情報システムのための評価制度(ISM MAP)管理基準

令和4年度春期 ITストラテジスト試験 午前II問題出題比率



(午後I試験(記述式))

午後I問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。問1は前回と同じくデジタルトランスフォーメーションに関連させた事例で、問4も前回同様にAI利用の事例問題になっています。

- 問1 国際物流会社におけるデジタルトランスフォーメーション(国際物流会社) やや易  
 会社の取組、越境ECシステム、サービスの課題、市場変化の対応、幅広い消費者層の取込み、商品の配送、DX推進、システム再構築、マーケティング活動の支援、保税倉庫活用を可能にするサービス提供
- 問2 製造業の情報システム戦略の策定(工作機械の組立製造会社) やや難  
 会社の状況、仕入れの問題点、サステナビリティの取組における問題点、ESG経営の取組、情報システム戦略の策定、SC基盤の新規開発、購買システムの改修、レポートシステムの新規開発
- 問3 スーパーマーケットにおけるITを活用した事業拡大(全国展開スーパー) 普通  
 会社の現状、店舗経営と課題、ECサイトと課題、IT戦略、店舗運営ノウハウの活用、EC産直コーナー強化、会員データの一元管理、ダイレクトマーケティングの強化、動画配信によるラーニングシステム構築
- 問4 AIを利用した気象予測システム(監視制御システムの製造メーカー) 普通  
 電力市場の状況、気象予測の必要性、気象災害の激甚化、局地的な気象を予測するシステムの検討、気象予測技術の調査結果、システムの検討結果、システム開発方針、市場展開の検討、事業戦略策定

(午後II試験(論述式))

午後II問題の出題分野とテーマは次のとおりです。前回はDX関連の出題ありましたが、今回は3問ともストラテジストの業務としてオードドックスな内容の問題でした。

- 問1 ITを活用した顧客満足度を向上させる新商品や新サービスの企画  
 事業概要、背景、顧客接点、関係性、新たな価値、扱うデータ、経営層への提案と評価、改善内容
- 問2 基幹システムの再構築における開発の優先順位付け  
 事業概要、環境変化、システム概要、再構築優先順位、考慮内容、工夫、経営層への説明・評価、改善

問3 経営環境の急激な変化に伴う組込みシステム事業の成長戦略の意思決定

製品概要, 環境変化, 成長戦略, 市場の特徴, 立案根拠, 意思決定, リスクマネジメント,  
戦略と意思決定・マネジメントの評価



itec